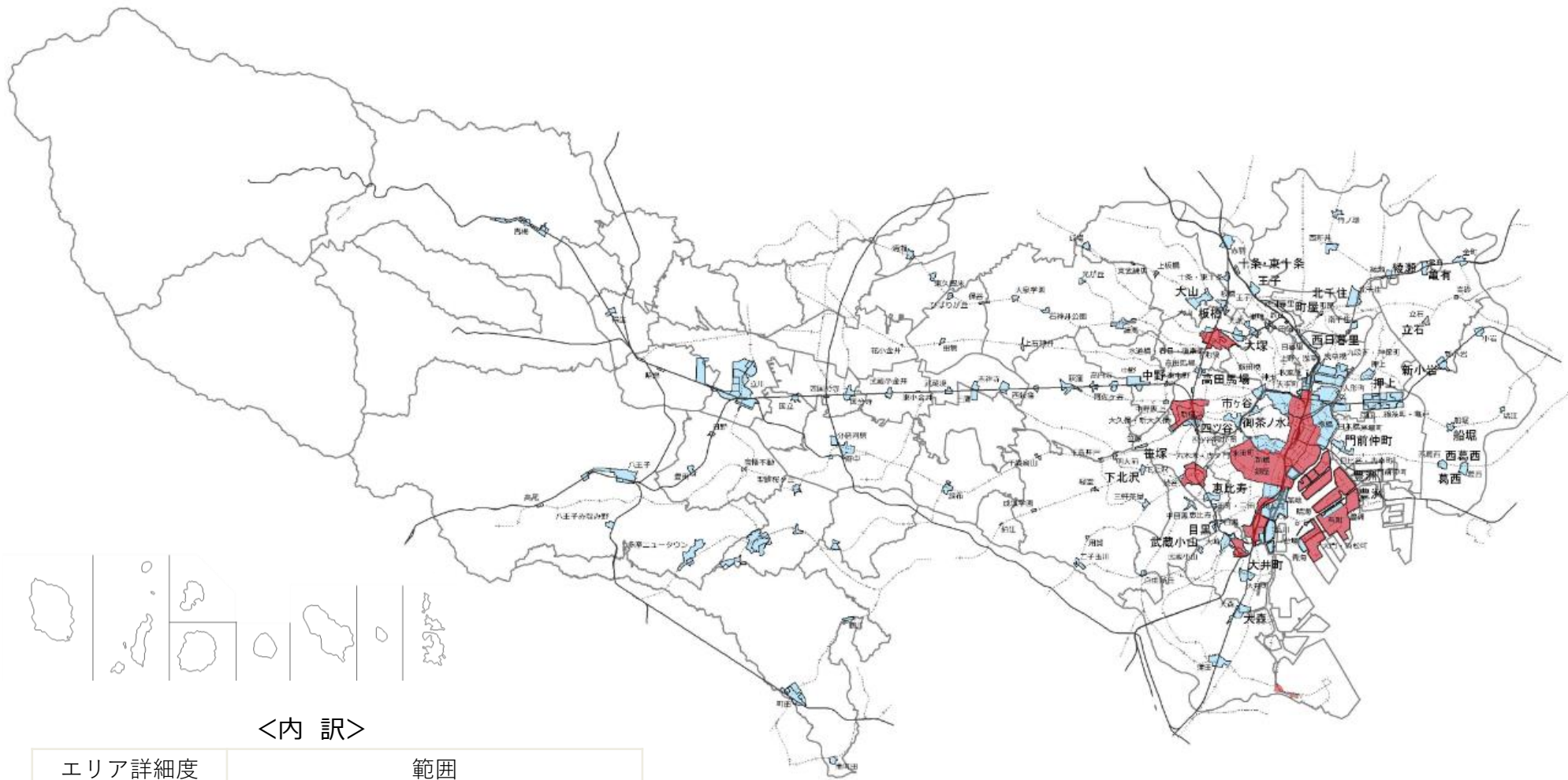


東京都における3D都市モデル詳細度（エリアLOD）設定について



<内 訳>

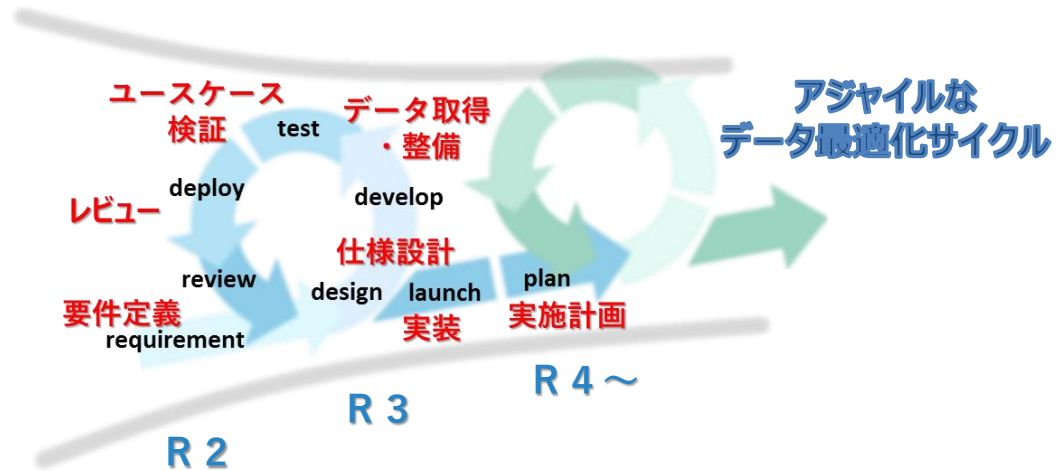
エリア詳細度	範囲
LOD1	<ul style="list-style-type: none"> ・23区 約559km² ・多摩 約1,160km² ・島しょ 約407km²
LOD2	都市再生緊急整備地域 約34km ² ※ 諸制度拠点地区 約38km ²

※指定区域境界付近等の影響範囲含む

凡例	
LOD1	都内全域
LOD2	都市再生緊急整備地域
	諸制度拠点地区

基本的な認識

要件定義や仕様については、技術の動向や社会情勢などを的確に捉えながら、継続的かつアジャイルに最適化を図っていく必要がある



＜委員の皆様からいただいた意見のうち、継続検討させていただく事項＞

- ・3Dデジタルマップの社会的な効果を計る方法として、三次元空間を体験した時間など、3D空間ならではの数値化があると良い。【第3回WG 田中委員】
- ・これまでの重畳データは3Dマップが無い前提のものであり、この辺りをプロットしていく際のコストや手間も検討が必要。【第2回WG 越塚座長】
- ・東京都の特徴として、物理的な街自体が変わり続けている点があり、こうした中で3次元マップの定期的な更新をどう考えるかが重要課題。定期的な更新について、ユースケースやユーザの立場から定義（例えば、年1回は最新版であることを保証等）し、これを成立させるための方法について議論を始めてはどうか。【第2回WG 田中委員】
- ・国交省都市局の3D都市モデルでは、都市計画基本図をベースに最低限5年に1回の更新するスキームを目指しているが、東京都のような大都市部では、5年に1回の頻度では低い可能性がある。【第2回WG 犬飼委員】
- ・行政が整備するデータと、民間データを活用した場合の品質の考え方を整理する必要がある。一方で、規制強化がすぎると自由な発想での議論を妨げることとなり、このバランスをもった整理ができることよい。【第5回WG 越塚座長】
- ・空間方向のカバレッジ（適用範囲）だけでなく時間軸方向も考慮することが重要で、時間軸を含めた品質基準を定めてデータをマネジメントしていくことが重要である。【第5回WG 越塚座長】